令和8年1月26日(月)通巻1953号　昭和47年12月11日第3種郵便物認可 毎週月曜日発行(第5月曜日休刊)

2026年 1月26日 No.1823

週刊 教育資料

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION　http://www.kyoiku-shiryo.co.jp

潮流 手話と音楽で防災教育

手話マイムアーティスト　まっきぃ♪

資料 中学校 情報・技術科(仮称)における目標、内容と高次の資質・能力について

――情報・技術ワーキンググループ

CONTENTS

▶ 2 潮流
手話と音楽で防災教育
まっきぃ♪(手話マイムアーティスト)

▶ 5 解説・ニュースの焦点
○社会教育活動の推進方策で中教審特別部会が「意見の整理」案
○中学校「情報・技術科」に2領域
編集部

▶ 8 特別企画
公立学校施設の木材利用状況は
編集部

▶10 校長講話
1月の行事に学ぶ、前に進む力
山口麻衣(東京都・文京区立千駄木小学校 校長)

▶12 保護者・地域・学校でつくる学びの未来
学校を町に開く
―大阪市立長原小が進める地域連携の新モデル―
長島ともこ(フリーライター、エディター)

▶14 君たちが18歳になる前に
「障害」の表記をどう考えますか
安藤 博(子ども法学者)

▶16 安心・安全な学校運営のための危機管理
学校行事の質を高める安全対策㊤
遠足・集団宿泊的行事
星野哲朗(東京都・小金井市立小金井第一中学校 副校長)

▶19 資料
中学校 情報・技術科(仮称)における目標、内容と高次の資質・能力について
情報・技術ワーキンググループ

▶35 教育問題法律相談
懲戒権削除で何が変わるのか
角南和子(弁護士)

▶36 学校事務新時代
学校事務職員が提案する学校施設や設備の管理②
児童生徒の意見を取り入れた施設改善
鈴木みのり(福島県・いわき市立平第三中学校 主任主査)

▶38 学級・授業づくり　虎の巻
「良い騒がしさ」と「温かい言葉かけ」
俵原正仁(兵庫県・芦屋市立浜風小学校 前校長)

▶40 管理職養成　教頭実務ガイダンス
一人一人の可能性を引き出す特別支援の在り方
野口みか子(全国公立学校教頭会顧問会 元会長代理)

▶42 高校現場最前線
探究的な学びで拓く普通科公立高校改革㊦
高橋竜也(愛知県立惟信高等学校 探究推進部)

▶44 現場の課題に応える教育機関
心理的な安全性を確保し、「自分の殻」から飛び出す挑戦を支援
佐野一郎(NPO法人じぶん未来クラブ 代表)②

▶46 子どもと貧困――いま、そこにある現実
「親との不和」という名の「貧困」
雨宮処凛(作家、活動家、一般社団法人反貧困ネットワーク 世話人)

▶47 BOOK
『現場発　災害時に子どもを支える』
伊藤 駿、中丸 和
『考える機械たち』インガ・ストルムケ

▶48 自著を語る
『いつも仕事が頭から離れなくて気が休まらない……それ、すべて過緊張です。』
奥田弘美(精神科医、産業医、執筆家、株式会社朗らかLabo 代表取締役)

▶51 品川裕香の共感教室
ASI(人工超知能)の時代に人間に求められるもの(前編)
品川裕香(教育ジャーナリスト)

▶52 マイオピニオン
戦略的コミュニケーションで教員不祥事を防止せよ
岡田芳樹(慶應義塾大学大学院 研究員)

潮流

手話マイムアーティスト

まっきぃ♪さんに聞く

手話と音楽で防災教育

岩手県出身。手話と心で音楽を表すアーティスト。埼玉県川越市でキッズサークルを結成し音楽と手話で想像力と表現力を育む。2021年に任意団体「tane.」を川越市の音楽家と共に設立。その他、イベントやLiveの企画・プロデュースなど幅広く活動中。

手話と音楽を用いて子ども主体の防災教育を埼玉県で広げてきた。子ども、大人、高齢者や障害者など幅広い層に防災の大切さを訴えている。

「笑顔のたねまき」を合言葉に

――「手話マイムアーティスト」とは、どんなものですか。

まっきぃ♪ 手話とパントマイムを組み合わせた表現活動をしています。また、2021年に「tane.」という任意団体をつくって、手話と音楽を軸に、子どもたちの表現活動を通じて地域イベントやワークショップの企画・出演などを行ってきました。介護施設訪問など世代を超えた交流の場を大切にして、「笑顔のたねまき」を合言葉に、地域に根差した活動を続けています。

「tane.」では手話表現を担当しており、音楽指導は音楽家の川越ますみさんが担当しています。これまで、「クリスマスキャロリング～今年も手話で！」と題して、歌と手話とハンドベルでクリスマスソングを演奏しながら子どもたちが埼玉県の川越市内を練り歩くイベントを行い、手話に興味・関心を持ってもらうなどの活動もしてきました。

――手話に興味を持ったのはどうしてですか。

まっきぃ♪ 会社で人事部に配属された際、部署にろう者の女性が在籍していたことをき

つかけに、手話を学び、彼女とコミュニケーションを深めたいと思いました。そこで週に1回、当時、東京都江東区が実施していた手話講習会に勤務が終わってから参加し、手話サークルなどにも加わりました。私は音楽も大好きだったので、好きな歌の歌詞をろう者の同僚に手話で伝えたりしました。ある日、2人で音楽ライブに参加して、歌詞を手話で伝えたのですが、「いい歌だね」と喜んでくれて、私も「伝わった！」と泣きたくなるほどうれしかったです。

こうした体験もあって、手話だけでなく、パントマイムという音のない所作で自由に表現する手法と組み合わせることで、ろう者だけでなく、誰もが表現を自由に味わう機会になるのではと思いました。人の寂しさへの理解も含め、思いやりや周りの人への想像力を高めて、「自分は何ができるか」を考える機会になればと考えています。

――「たねまキッズ」の活動を2022年から始められましたね。

まっきぃ♪ 手話と音楽が大好きな子どもたちが集まって、2022年7月に埼玉県川越市で「たねまキッズ」を結成し、2025年1月からは千葉県浦安市でも活動を開始しました。手話音楽を通して、手話の習得や表現力の向上を目指すとともに、親子の交流の輪を広げる場づくりを行っています。地域のイベントなどに出演して手話音楽を披露することで、川越市や浦安市から世界中に「笑顔をたねまき」をしたいと思います。

「たねまキッズ」には、川越市や浦安市に在住している小学生の子どもたちが学校や学年を超えて和気あいあいと活動しています。練習後に皆で鬼ごっこ遊びをするのも楽しみになっているようです。特に、各地の介護施設などにも出かけていますが、高齢者の方などに喜ばれてうれしかったという子どももいました。

防災教育のモデルを企画

――子どもが主体になった防災教育のモデルを提案されていますね。

まっきぃ♪ 埼玉県で子どもが主体となった防災教育のモデルとして「ぼうさいきっず」という提案をしています。手話と音楽を用いて子ども主体の防災教育「ぼうさいきっず」を県全体に広げていくためのモデル事業として、埼玉県とも連携して展開していきたいと思っています。

災害時に、耳の聞こえない人や障害のある人にとって、情報が届かないことは命に関わる問題です。手話はそうした課題を解決する有効な手段の一つです。さらに、手話に音楽を組み合わせることで、楽しく自然に防災を学べる機会が生まれます。

――どんな活動を考えているのですか。

まっきぃ♪ 「ぼうさいきっず」では、災害の恐怖を伝えるのではなく、子どもたちが自ら考え、学び、発信することを大切にした防災教育をイメージしています。手話というインクルーシブな視点を取り入れることで、誰一人取り残さない防災や共生社会への理解につながり、次世代の防災意識の定着に寄与できる取り組みになると考えています。

「防災をもっと身近に、誰もが分かりやすく」を目指して、防災ソングを手話で覚える、災害が起きたときに何ができるか考える、災害時にいろいろな立場の人のことを考える――などに取り組みます。なお、手話付防災ソング映像を制作しており、YouTubeでも配信しています。また、地域の商店街や団体と連携した防災イベントなども進めていきます。

――「防災ソング」というのは面白い発想ですね。

まっきぃ♪　埼玉県で「埼玉応援隊 さいたまっち倶楽部」や「彩の国けんけつ特命大使」として活動されている、歌手・司会のにゃんたぶぅ たくまんこと和田琢磨さんが作詞・作曲した、防災ソング「安心安全ありがと防災」があります。和田さんとの交流から、音楽と手話をかけ合わせた「防災×手話」プロジェクトが生まれ、子どもから高齢者、聴覚障害のある方など、幅広い層に、防災の大切さを届ける活動を継続してきました。これらの活動が評価をされて、「宮城県心の復興支援事業」（令和７年度）に採択され、「音健アワード２０２５」優秀賞などもいただき、昨年12月８日付の埼玉新聞などで紹介されました。

「安心安全ありがと防災」は、歌詞の中に災害に備えて事前に準備する防災グッズなどが登場します。そこで、この歌詞を手話で表現しながら、映像では防災リュックの中身が見えるように工夫しています（画像）。

多様性への理解や居場所づくりにも

――学校関係者をはじめ、「ぼうさいきっず」の活動を進めるためにアピールしたいことは。

まっきぃ♪　今回のプロジェクトは子どもたちがどの地域に生まれても、防災と優しさを当たり前に身に付けていける社会の実現に向けて、学校関係者も含めて幅広い方々と連携して応援をしていただけるようにしたいと考えています。

防災をきっかけに、手話への理解や多様性への共感も生まれます。音楽と手話は、世代や立場を超えて「心のつながり」を育むことができます。また、避難生活や災害後の心のケア、地域との交流にもつながるなど、「安心できる居場所」を広げる活動にもなります。

――だから「防災ソング」の動画を子どもたちと一緒に作ったわけですね。

まっきぃ♪　歌詞の中には、防災リュックに入れるべき物のリストの例が出てきます。例えば、水、食料、携帯トイレなどです。動画では、実物を示していますが、動画を撮り終えた後、早速家族と協力して、防災リュックの中に入れるものをそろえた子どももいました。

こうした動画をきっかけにして、それぞれの家族の中で、災害時にどこで待ち合わせするのかとか、連絡方法などについて確認するなどして、防災意識を高めることにつながればと思っています。

なお、YouTubeで「ぼうさいきっず」を検索すれば確認できますが、川越市の他に宮城県気仙沼市のバージョンも収録しています。この気仙沼市バージョンは、川越市の子どもたちが昨年、宮城県に行って、仙台の子どもたちと一緒になって制作した動画です。

学校などでも、防災教育の一環として、活用していただきたいと思います。

任意団体 tane. = https://www.makkimassu2020.com/

「ぼうさいきっず『安心安全ありがと防災♪』埼玉県（川越市編）」＝https://www.youtube.com/watch?v=KILOmsGO-gg&list=RDKILOmsGO-gg&start_radio=1